

全国共同利用研究所図書室として

京都大学数理解析研究所 図書掛長 堤 美 智 子



数理解析研究所図書室の設置年は1963年。京都大学内では若い図書室です。

研究所の特徴の最たるものは数理科学の研究所であると同時に、この分野での全国共同利用研究所でもあるということです。数学は紙と鉛筆があれば後は頭脳と他の頭脳との議論で学問が発展していくと言われていました。現況では昨年度共同利用研究の件数は77件。研究集会参加人数は3,982人。外国からの訪問研究者は205名を数えます。一年間を通じて4千名の人達が数研で77の研究集会を開き、200名以上の外国人学者が長期、短期に渡って数研に滞在して共同研究を行っているという訳です。

研究成果としての出版物も豊富です。プレプリント(学術誌に投稿する前に印刷配布する先刷り)、紀要、研究集会の報告集である『講究録』を研究所として出版しています。

図書室ではプレプリント、紀要を国内外の研究機関と交換し、コレクションを構築しています。プレプリントに関しては書誌・所蔵データベースをRIMSという名前で作成、提供。『講究録』については国立情報学研究所の学術雑誌目次速報データベース構築に参加しています。

数学は理系の文系といわれるように文献が研究上非常に重要視されます。現状では約7万7千冊の単行本と1,319種の雑誌、それにプレプリント約9万冊、レクチャーノート(講義録)を4箇所の書庫に収納しています。図書室は研究所の

3階に位置し閲覧席は20席の小じんまりした図書室です。閲覧室は理学部植物園に面していて四季折々の植物の趣を楽しむことができます。

先にありますように図書室では業務のコンピュータ化が進む以前からデータベースの構築に取り組んで今日に至っています。図書業務がネットワークの上で行われるようになって現在の、閲覧貸出サービスをもシステムに乗せようと現在進行中です。書誌データのNIK(前NACSIS)への登録が80%程度終了。NACSIS ILLによる複写と現物貸借の受付・依頼、図書・雑誌の収書システム処理は実施済みです。書誌データの入力が比較的進んでいる状況があるので、図書貸出・返却システム導入を計画、資料IDラベル添付作業中です。

現行の貸出時、所内の利用者はカウンターに係員が不在でも図書を借り出すことが出来るシステムになっています。新システムには利用者によるセルフ貸し出し・返却も可能との仕様があるらしいので、数研内の利用者には不便にならず、私たち5名の図書室係員にとっては督促、統計などの面で省力化になるだろうとの期待もっています。

学問分野から考えると意外かも知れませんが数学や情報学分野の電子ジャーナルを始めとするデジタル資料に対して数研としての姿勢は非常に積極的であるというわけではありません。プレプリントの交換に関してもプレプリントを電子化し、紙媒体のプレプリントの交換を停止してくる外国の機関も出現していますが、電子資料については保存面で確実な保障はまだ得られていないと思われます。また、提供を受ける側として必ずしもコンピュータを使用できる環境にある利用者ばかりではなく、数研としては“情報弱者を作らない”との信念をもって資料のコレクション・提供に取り組んでいます。

(つつみ みちこ)